

様式 5

平成 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 29 年 10 月 17 日

学 長 殿

福島大学 共生システム理工学類・教授

石岡 賢

助成事業の区分 (該当するものに印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・学会等運営・ <u>学会参加</u> ) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事業名	2017 2nd International Conference on Business, Economics and Management
事業実施期間	平成 29 年 6 月 27 日 ~ 平成 29 年 6 月 30 日
成果の概要	<p>平成 29 年 6 月 28 日から 29 日に開催された 2017 2nd International Conference on Business, Economics and Management において、論文投稿と研究発表を行った。投稿した論文の枚数は 6 枚である。</p> <p>発表のタイトルは「Study on Value Delivery Process with Design Thinking」である。近年では、市場の成熟化、コモディティ化といった市場環境において競争優位を確立することが困難になっている。本研究はこれらの市場環境において競争優位を確立するために、デザイン思考による価値提供プロセスを考察し、効果的なコンセプトを提示する発表を行った。</p> <p>より詳細な内容としては、デザイン思考の、「着想」、「発案」、「実現」のイノベーションのプロセスに、ラテラル・マーケティング、積み重ね技術、ポストモダン・マーケティングを取り入れることによる効果について考察した。</p> <p>その結果、1.「着想」のプロセスにおけるラテラル・マーケティングの視点による着想と、「発案」のプロセスにおける発散的思考と収束的思考での発散、収束プロセスの向上、2.「発案」における積み重ね技術を活用した新たなアイデアの創出、「実現」におけるプロトタイプ制作のフィードバック、知見の改善、ポストモダン・マーケティングによる「実現」での意味的価値の創出という効果を提示した。</p> <p>今回の研究発表は、学生にとって、英語での研究発表ということもあり、英語論文の記述方法、推奨される単語、文法といった点において自己の知見を広げる良い機会となった。</p> <p>以上のことから、自らの研究に対する新たな知見が得られ、研究内容をより充実させることが出来たと考えられるため、本学会への参加と発表は有意義なものだった。</p>